

【歌詞】

鼓唄へ嬉しやさらば舞わんとて 扇子おっ取りいろいろの すでに拍子を進めけり

へそも歌舞伎女の始まりは 島の千歳和哥の舞 一奏とて所望につれ 其折からの女舞

舞うは小蝶か花に寄れ 花は移ろう人心 文がやりたや室町筋へ とりや違えて余の人にやるな

花のかの様の さて花のかの様の 手には渡せ

へ様を思えばかく忍べども 甲斐ぞなき つれなき松に降る時雨 情に隔てはなきものを

尽きすまじ 思いはつんつん釣の糸 釣った所が可愛うて愛しうて夜も日もあかぬ

帯のしやら解け口舌の種よ もうえいわいな別れ鳥 とかく戯れ遊べ世の中

二上りへ君に逢いとうて徒歩跣足浅瀬も渡り深い瀬も渡れ 合 日数重ねて瀬川に馴れて

夜去寄り逢うて 泥糺踏み習うた 夜去寄り逢うて泥糺踏みやれ 滑りやれ申すな すんべるべいとも

横たに引ん抱け 昔の十七今での年まめ 胆がでんぐり 合 つん出るこんだにえ 恥ずかしや

へなぜに梅をば兄という 南枝はじめて開き初め 風の香の有る鶯の その囀りのしおらしや

へなぜに紅葉は紅葉じや 顔に仄めく私語 言いたい事を紅葉して 野暮ならほんに 合

しよう事がないわいな

へなぜに桜は散るといふ 花の頃には面はゆき かづきの姿入相の 鐘が悋気の花誘う

へさすが園生の出立栄 末葉も嬉し水仙の 賑わう賑わう花の顔見勢